



来たれ、「臨床写真家」!

第1回日本臨床写真学会学術集会

このたび、本稿ご執筆の忽那賢志先生が学会長となり、「日本臨床写真学会」が創設されました! その第1回学術集会が下記のように開催されます。臨床写真は、時に「診断」に非常に重要な情報をもたらします。文明の進歩によって、より一般的になった写真や動画の撮影は、医学の分野にも大きな影響を与えるようになりました。診断に大きく寄与した1枚、病態をあばく印象的な1枚、そして教育的な1枚が集まる、「臨床写真家」たちの真面目な学術集会です。ぜひとも、ご参加ください。

日時: 2018年9月2日(日) 13~17時

会場: 国立国際医療研究センター大会議室(東京都新宿区)

テーマ: Clinical Picture を撮ろう

大会長: 忽那賢志(国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室医長)

プログラム

特別講演「私と臨床写真」 須藤 博(大船中央病院 院長)

一般演題① Clinical Picture クイズ(公募)

一般演題② 臨床写真鑑賞会(公募)

シンポジウム「NEJM への道—こうして私達は NEJM に載った」

刈崎宇一郎(恵寿総合病院 副院長): gastric anisakiasis

山本 祐(自治医科大学地域医療学センター総合診療部門): Achenbach's syndrome

庄司健介(国立成育医療研究センター 感染症科): herpetic whitlow

松尾貴公(聖路加国際病院 感染症科): acute esophageal necrosis

忽那賢志: rubella rash

参加費: 未定(500~1,000円程度予定)

問合せ: 忽那賢志(国立国際医療研究センター 国際感染症センター) ✉ skutsuna@hosp.ncgm.go.jp